

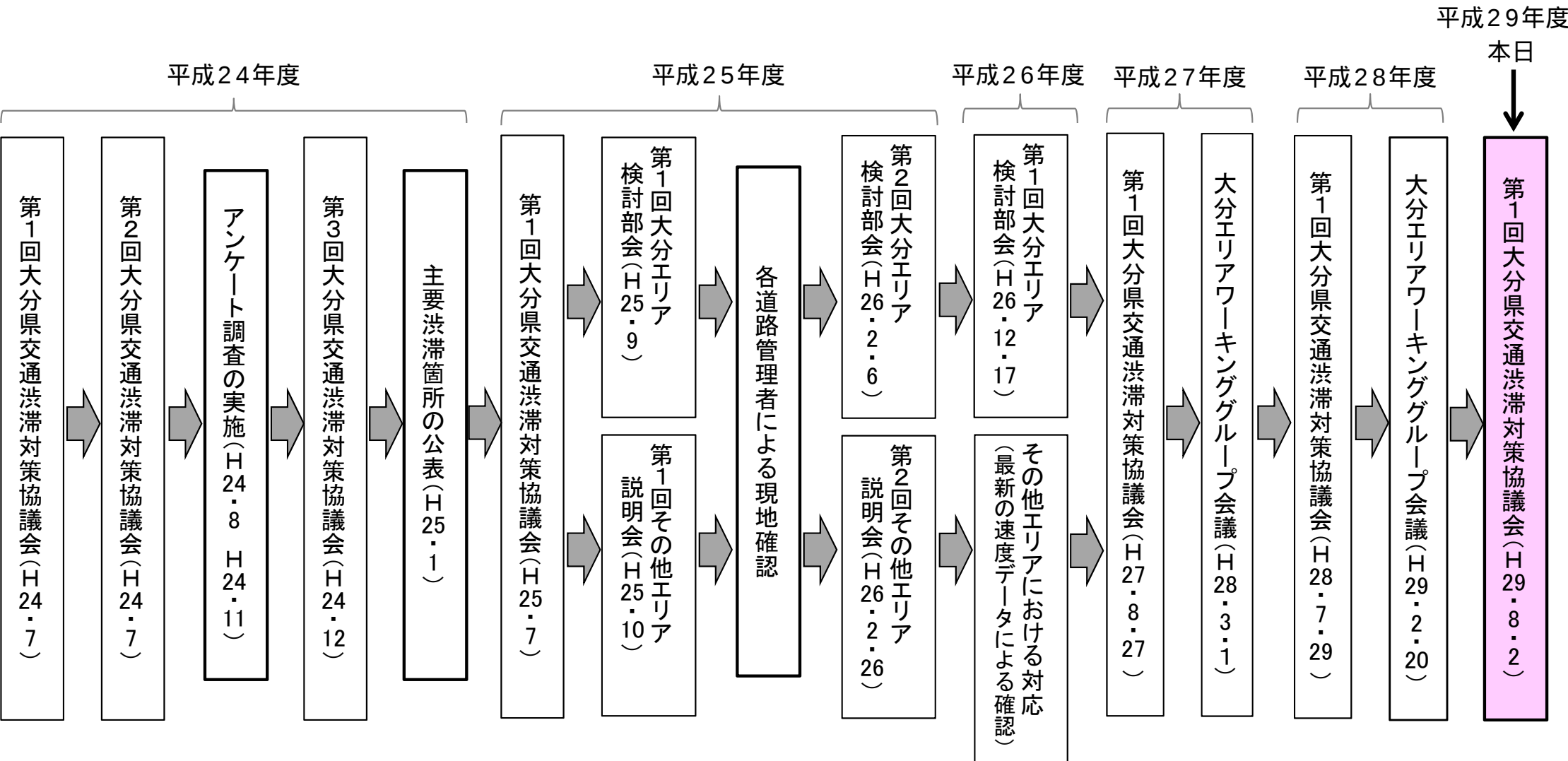
平成29年度 第1回
大分県交通渋滞対策協議会資料

目次

1．これまでの検討経緯		1
2．主要渋滞箇所の改定について		2
3．大分エリアにおける渋滞対策の方針と取り組み		14
4．ピンポイント渋滞対策（簡易対策）の取り組み		20
5．トラック・バス等の利用者団体と連携した渋滞対策の取り組み		24
6．都心部におけるソフト対策の取り組み		25
7．今後の進め方		28

平成29年8月2日

1.これまでの検討経緯



2. 主要渋滞箇所の改定について

(1) 最新交通データによる主要渋滞箇所点検結果と主な道路事業状況

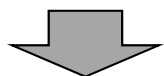
▼大分県内の主要渋滞箇所(一般道)

主要渋滞箇所数	区間内の 主要渋滞箇所数	単独 主要渋滞箇所数
147箇所	82箇所 (29区間)	65箇所

区間: 交差点等が連担するなど、速度低下箇所が連続しており、複数の主要渋滞箇所を含む区間
箇所: 単独で主要渋滞箇所を形成

▼主要渋滞箇所の選定基準

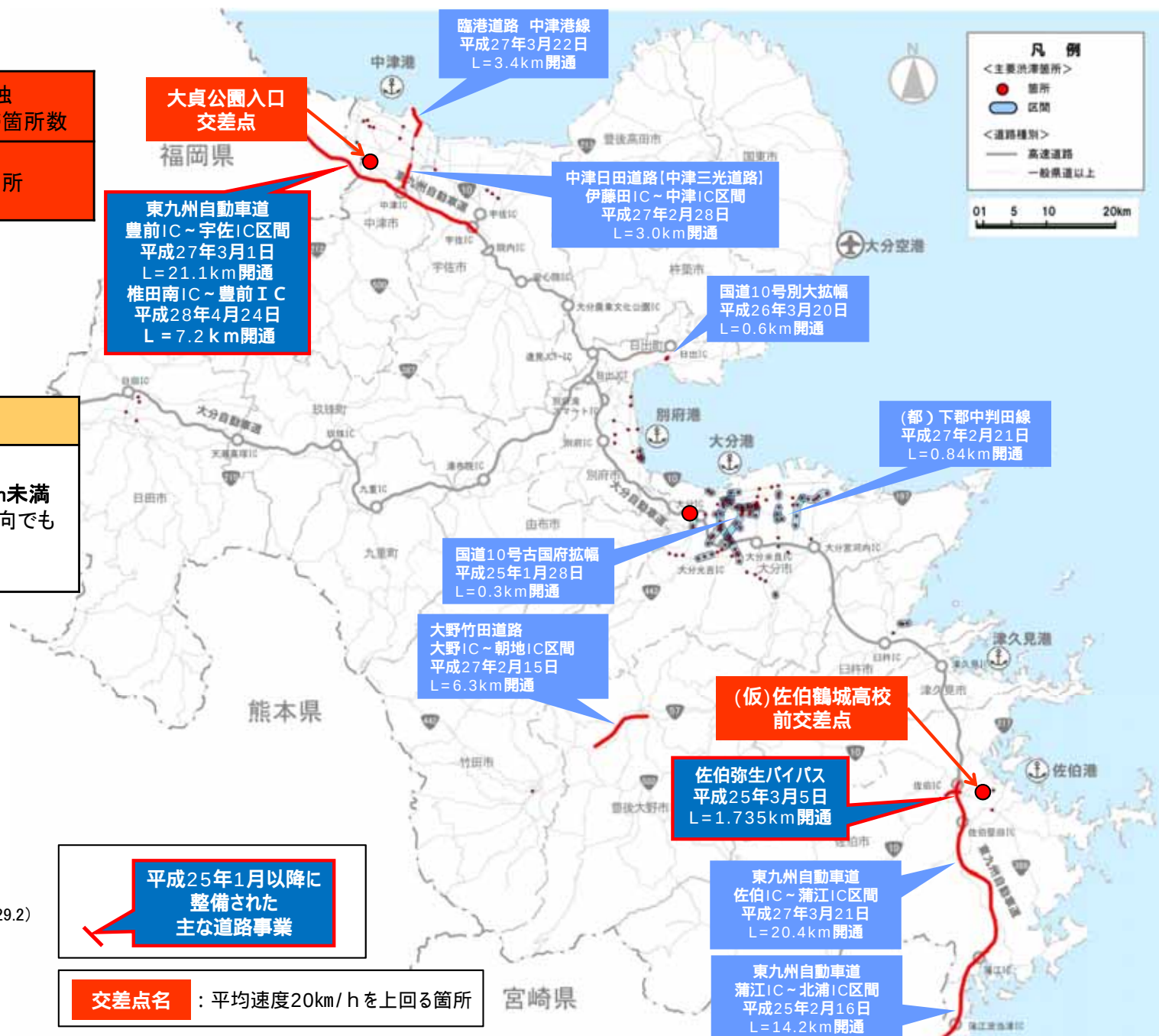
曜日・時間帯	選定基準
平日 朝 (7時～9時)	平均速度20km/h未満 ※いずれか一方でも該当する箇所
平日 夕 (17時～19時)	
休日 昼 (7時～19時)	



▼主要渋滞箇所の点検(モニタリング)結果

選定基準 該当箇所数	選定基準 非該当箇所数
145箇所	2箇所

※プローブデータによる(選定時: H24.4～H24.8、最新: H28.3～H29.2)



2. 主要渋滞箇所の改定について

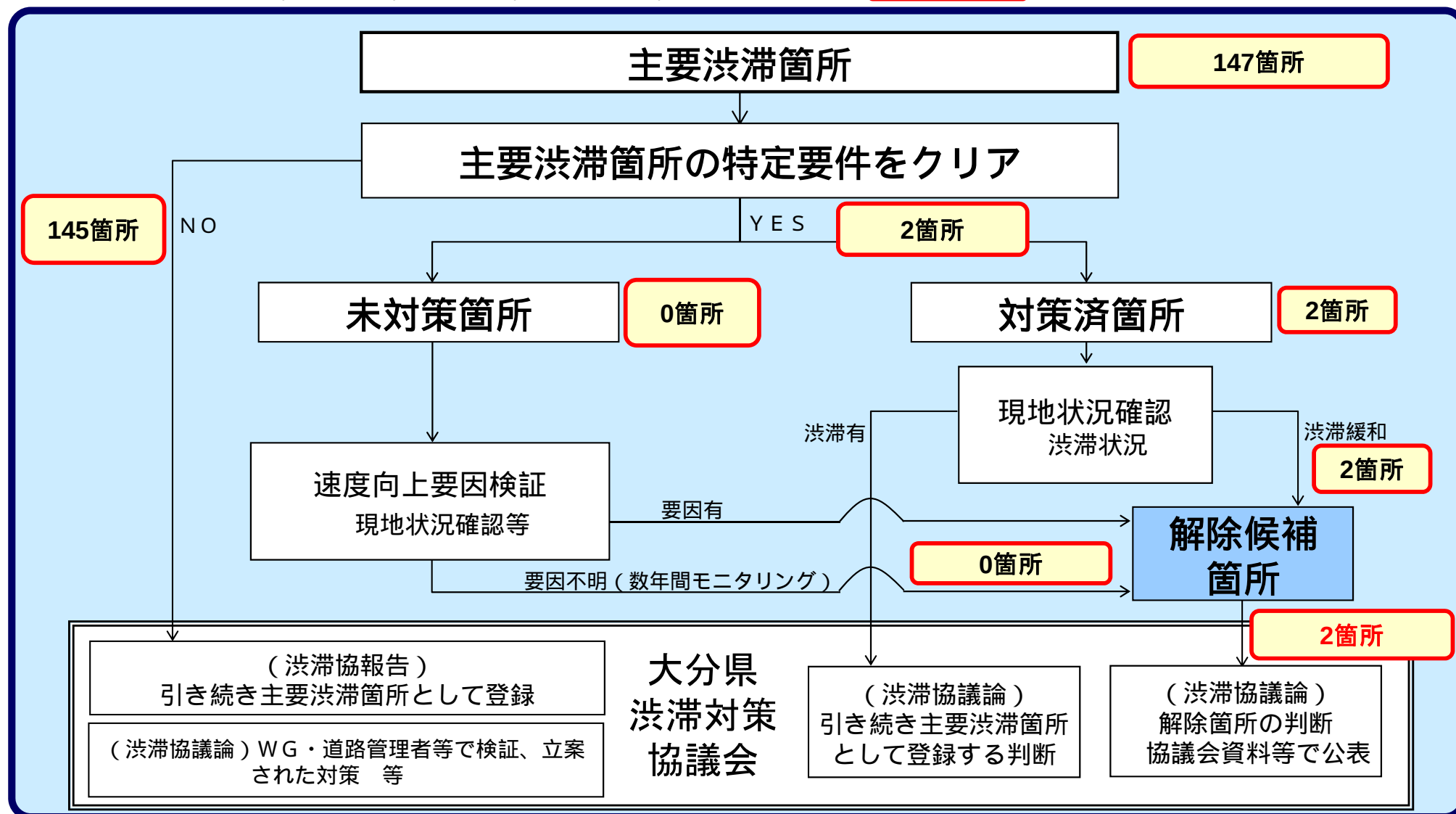
(2) 最新交通データによる主要渋滞箇所点検結果と主な道路事業状況

- ・主要渋滞箇所の指定解除については、以下に示すフローに従い最新のデータや現地状況等を確認し、各箇所毎に渋滞対策協議会で判断して解除を行う。
- ・モニタリングの経緯を踏まえて、**今年度2箇所の主要渋滞箇所の解除を本協議会にて提案**する。

■ 主要渋滞箇所(一般道)の取扱(解除要件)フロー

●箇所

：大分県内の主要渋滞箇所数



2. 主要渋滞箇所の改定について

(3) 最新交通データによる主要渋滞箇所点検結果

・H25年1月以降に整備された道路事業により、交通状況の変化が想定される主要渋滞箇所のモニタリング結果一覧を以下に示す。

・モニタリングの結果、(仮)佐伯鶴城高校前交差点、大貞公園入口交差点については道路整備により渋滞が解消され、選定基準(旅行速度20km/h未満)もクリアしたため、「解除候補箇所」とする。

○その他、4箇所については、依然として主要渋滞箇所の選定基準(旅行速度20km/h未満)に該当しているため、「経過観察」とする。

● 道路整備が行われた主要渋滞箇所の点検結果

単位: km/h

主要渋滞箇所名	市町村名	選定時			最新			道路整備事業	
		平均速度(H24.4-H24.8平均)			平均速度(H28.3~H29.2平均)			主な整備内容	整備時期
		平日朝	平日夕	休日昼	平日朝	平日夕	休日昼		
顕徳町3丁目	大分市	9.4	5.4	6.0	6.0	2.9	3.9	国道10号古国府拡幅	H25.1
(仮)佐伯鶴城高校前	佐伯市	14.6	13.1	23.3	25.3	25.0	23.8	国道217号佐伯弥生バイパス	H25.3
					10.8	11.8	0.5		
堀	日出町	13.2	9.5	14.2	13.4	13.4	17.3	国道10号別大拡幅	H26.3
					0.2	3.9	3.1		
牧跨線橋南	大分市	10.2	7.8	13.3	10.9	8.8	13.9	(都)下郡中判田線	H27.2
					0.7	1.1	0.6		
佐野	宇佐市	19.2	24.4	18.8	16.5	14.0	15.6	東九州自動車道(豊前IC~宇佐IC区間)	H27.3
					-2.7	-10.4	-3.2	東九州自動車道(椎田南IC~豊前IC区間)	H28.4
大貞公園入口	中津市	10.3	11.7	11.0	20.9	21.0	21.3	東九州自動車道(豊前IC~宇佐IC区間)	H27.3H28.4
					10.5	9.3	10.3	東九州自動車道(椎田南IC~豊前IC区間)	

解除候補

解除候補

※下段は選定時からの増減

データ: プローブデータ流入方向の旅行速度より
(道路整備された方向の最低速度)

2. 主要渋滞箇所の改定について

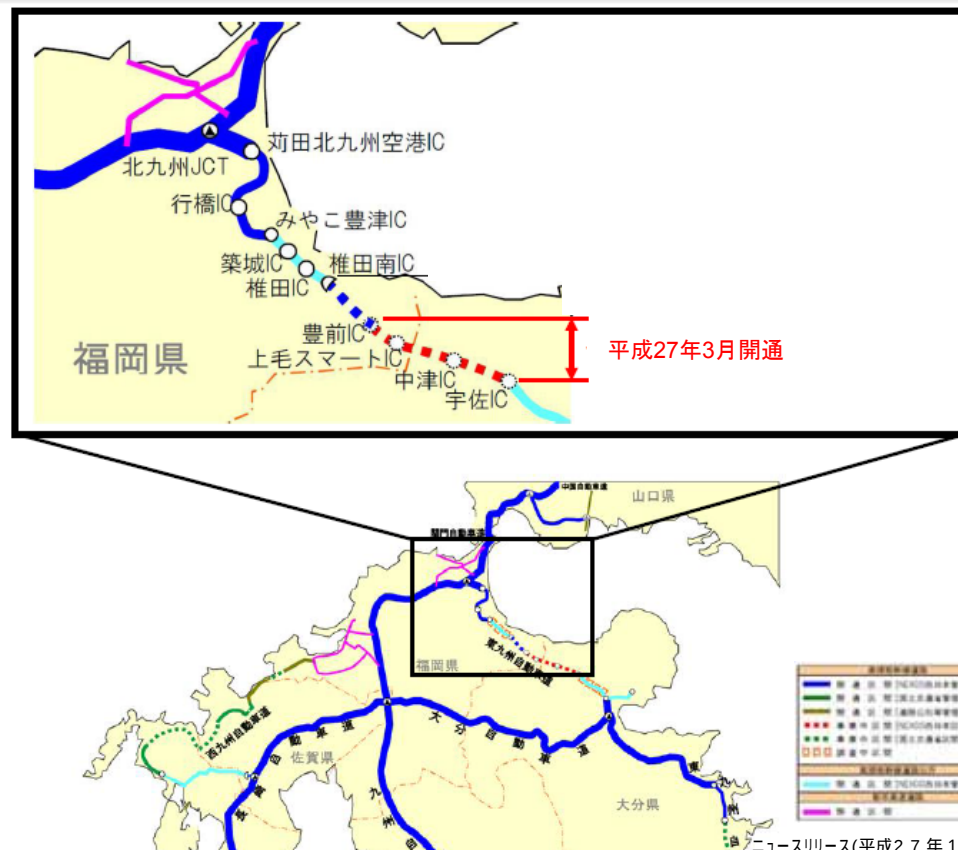
(4) 対策済み箇所のモニタリング

【道路事業】東九州自動車道豊前IC～宇佐IC区間(H27.3)

【事業概要】

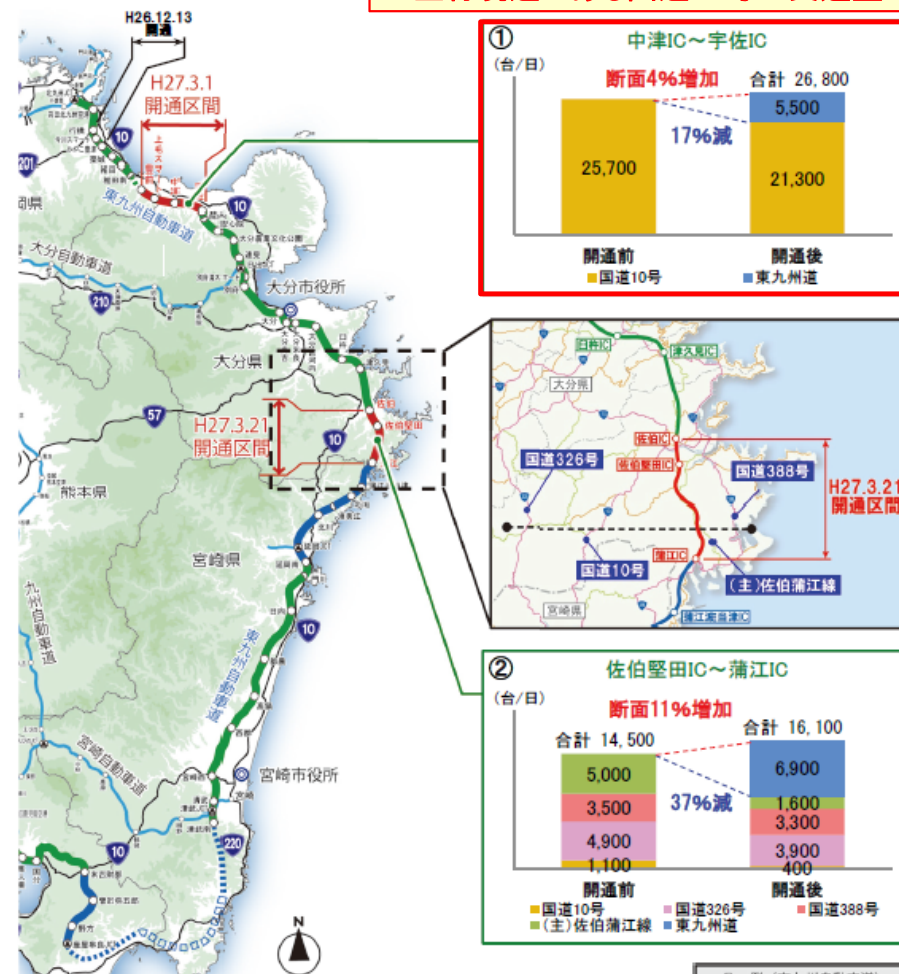
- 東九州道は、北九州市を起点として、福岡・大分・宮崎・鹿児島各県を結び、鹿児島市に至る延長436kmの高速自動車国道である。
- H27.3に豊前IC～宇佐IC間が開通し、国道10号を通過する交通の一部が東九州道に転換した。

(位置図)



(交通量変化状況)

豊前IC～宇佐IC間の開通に伴い、
並行現道である国道10号の交通量が減少



【交通量調査結果】

- 東九州道 開通後: H27. 3. 23(月)～H27. 4. 21(火)の平日平均値
- 並行一般道 開通前: ①: H27. 2. 17(水), ②: H26. 10. 23(木)またはH27. 2. 25(水)
- 開通後: H27. 4. 21(火)

※①の開通前交通量は12h実測値をもとにH22センサスの昼夜率を用いて日交通量に換算
※東九州道の交通量は、交通量計測装置によるデータを速報値として記載。(百台単位にて表示)

記者発表資料(平成27年5月1日)
国土交通省九州地方整備局
佐伯河川国道事務所
西日本高速道路株式会社

2. 主要渋滞箇所の改定について

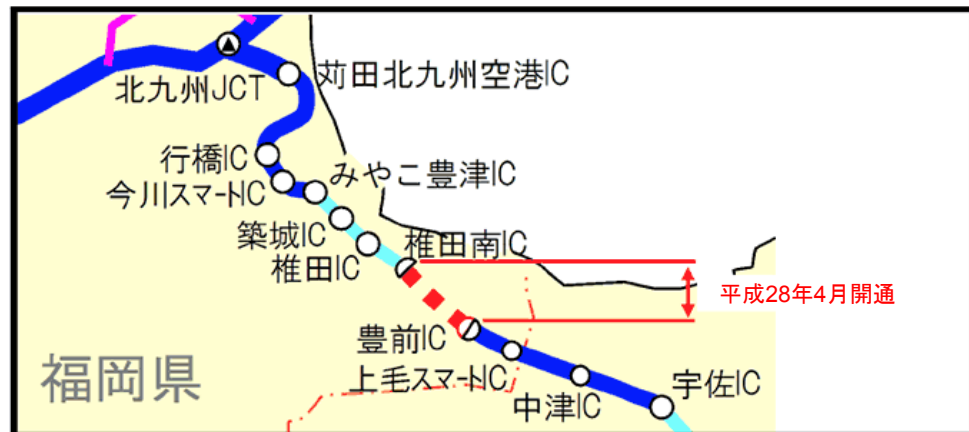
(4) 対策済み箇所のモニタリング

【道路事業】東九州自動車道椎田南IC～豊前IC (H28.4)

【事業概要】

- ・東九州道は、北九州市を起点として、福岡・大分・宮崎・鹿児島各県を結び、鹿児島市に至る延長436kmの高速自動車国道である。
- ・H28.4 に椎田南IC～豊前IC間が開通し、国道10号を通過する交通の一部が東九州道に転換した。

(位置図)

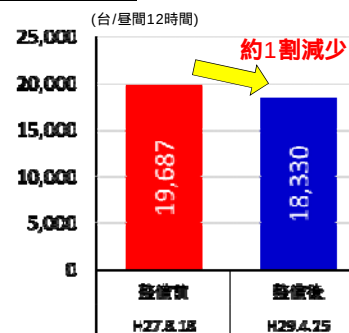


(交通状況の変化)

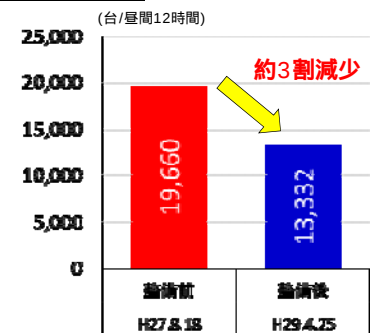


交差点への流入交通量の変化

舟入交差点



山田交差点



整備前: H27.8.18(火)調査結果
整備後: H28.4.25(火)調査結果

2. 主要渋滞箇所の改定について

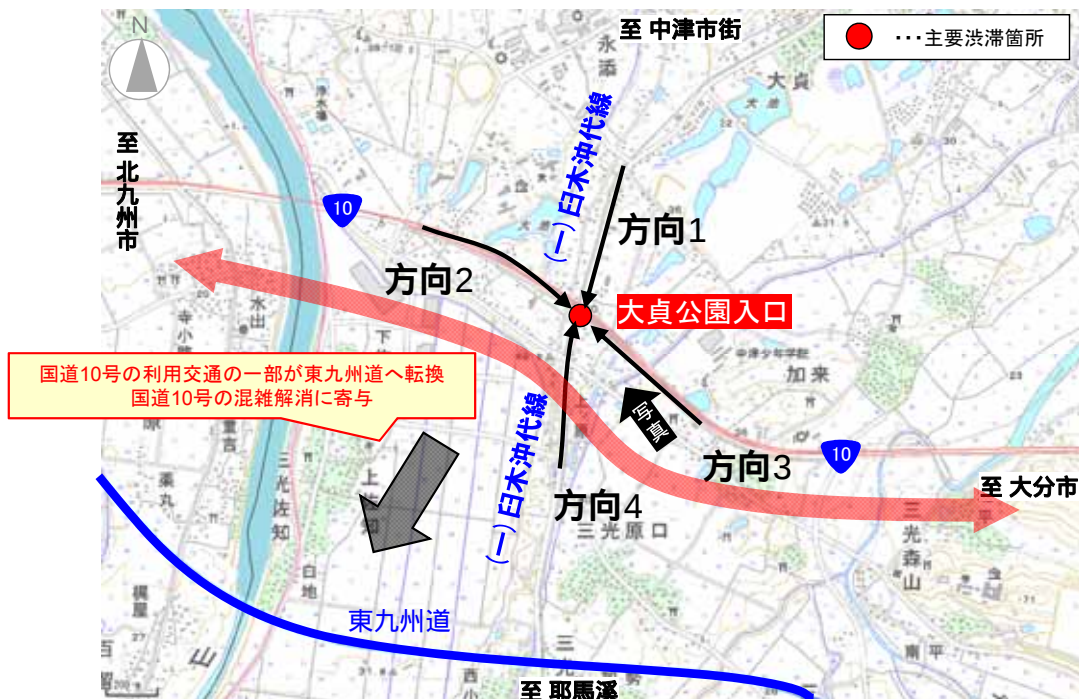
(4) 対策済み箇所のモニタリング

【道路事業】東九州自動車道豊前IC～宇佐IC区間(H27.3)及び椎田南IC～豊前IC(H28.4)

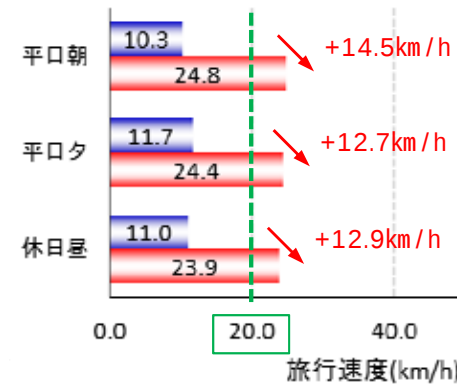
【主要渋滞箇所】 大貞公園入口交差点

- ・東九州自動車道豊前IC～宇佐IC区間(H27.3)及び椎田南IC～豊前IC(H28.4)の開通により一部の交通が東九州道に転換し、国道10号の走行性が向上している。
- ・最新の速度データでも、各時間帯において全ての方向で、20 km/h以上となっている。

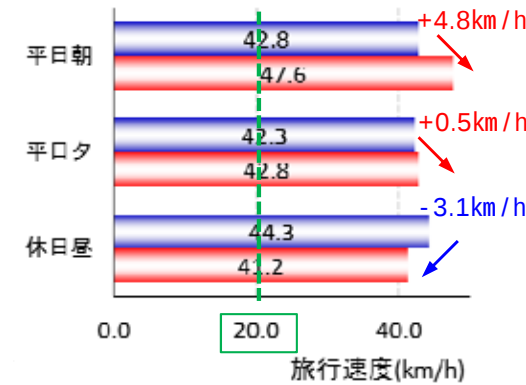
⇒モニタリングの結果を踏まえ、特定要件をクリアしていることから、主要渋滞箇所の解除候補として提示する。



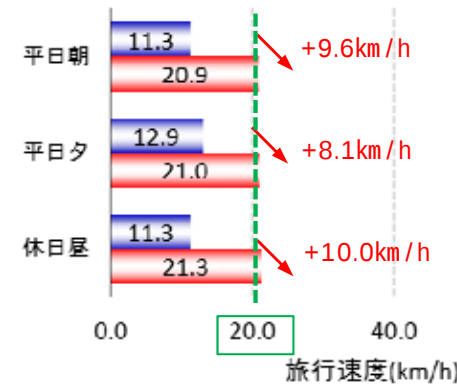
方向1_県道675(北)



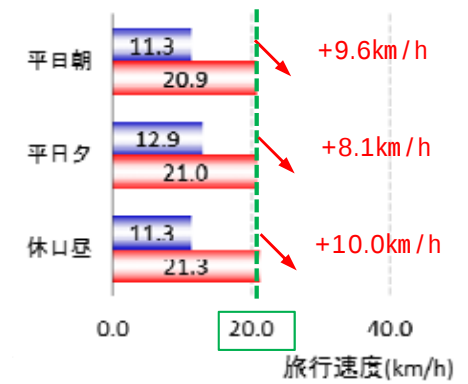
方向2_国道10号(北西)



方向3_国道10号(南東)



方向4_県道675号(南)



選定時 (H24) : H24.4 ~ H24.8
最新 (H28) : H28.3 ~ H29.2

2. 主要渋滞箇所の改定について

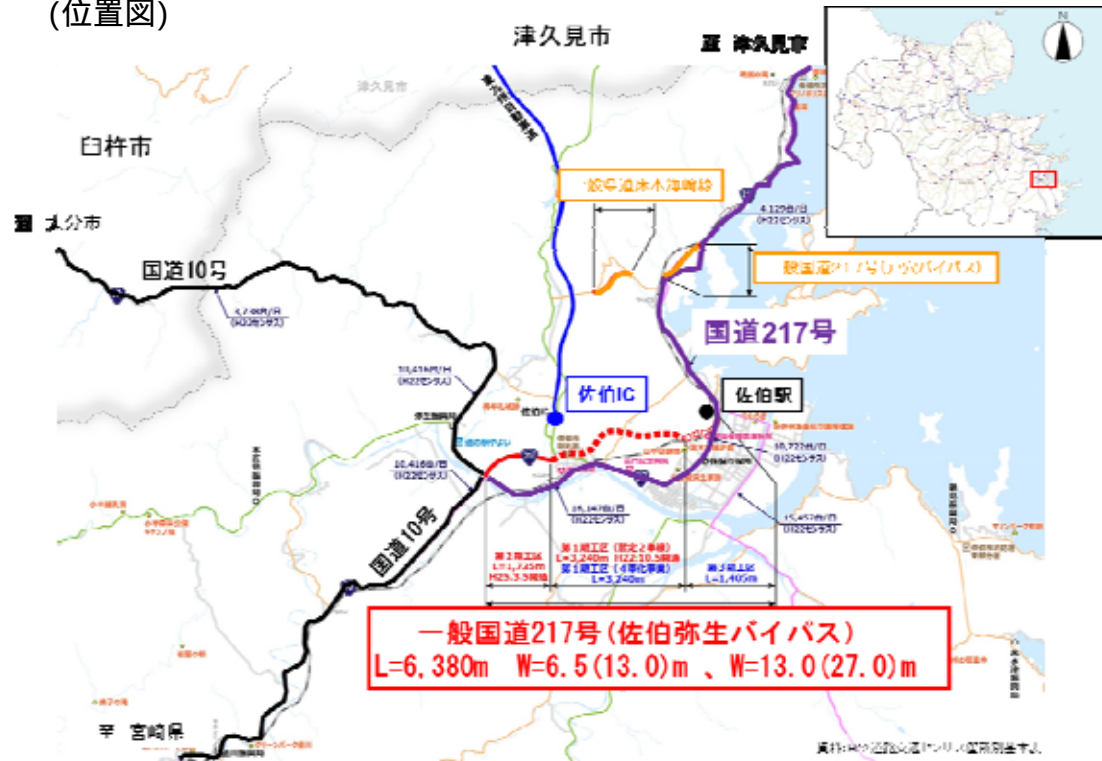
(4) 対策済み箇所のモニタリング

【道路事業】佐伯弥生バイパスの全線開通(H25.3)

【事業概要】

- ・国道217号佐伯弥生バイパスは、佐伯市内の渋滞緩和や東九州自動車道へのアクセス向上を目的に整備を行っており、国道10号番匠大橋から佐伯市古市間の2期工区が平成25年3月5日に開通した。
- ・これにより佐伯市内の渋滞緩和や佐伯ICまでのアクセス改善が図られた。
- ・脇排水機場前交差点では各方向の渋滞が大幅に緩和された(交差点の最大渋滞長が1,500m→100mに減少)

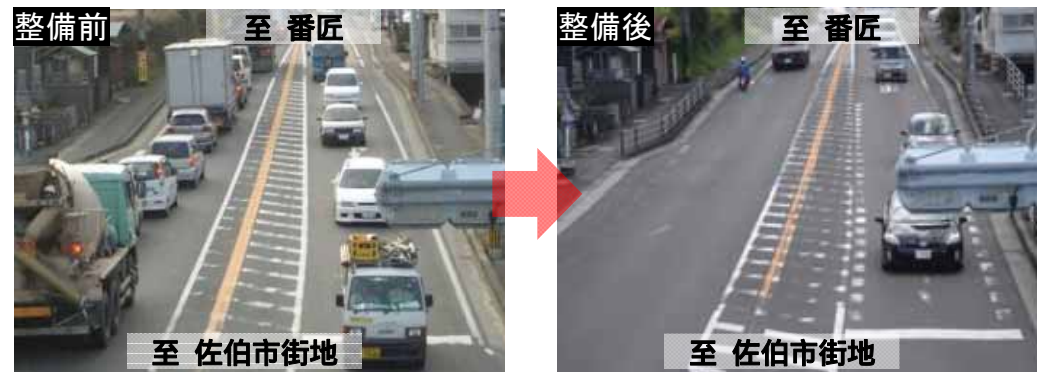
(位置図)



(整備効果)



(脇排水機場前交差点の交通状況)



2. 主要渋滞箇所の改定について

(4) 対策済み箇所のモニタリング

【道路事業】佐伯弥生バイパスの全線開通(H25.3)

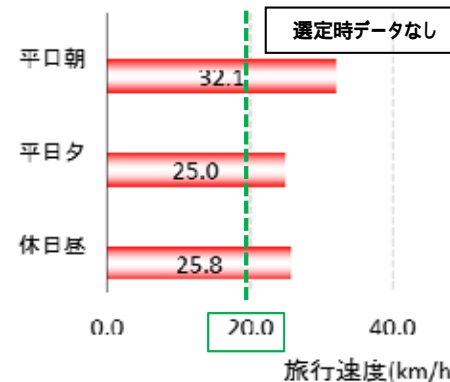
【主要渋滞箇所】 (仮) 佐伯鶴城高校前交差点

- ・佐伯弥生バイパスの全線開通(H25.3)に伴い、交通の転換が図られ、走行性が向上している。
- ・最新の速度データでも、各時間帯において全ての方向で、20 km/h以上となっている。

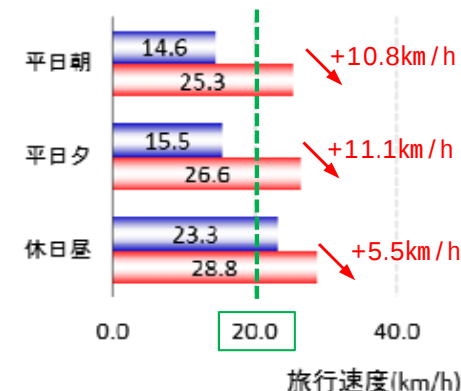
⇒ モニタリング結果を踏まえ、特定要件をクリアしていることから、**主要渋滞箇所の解除候補として提示**する。



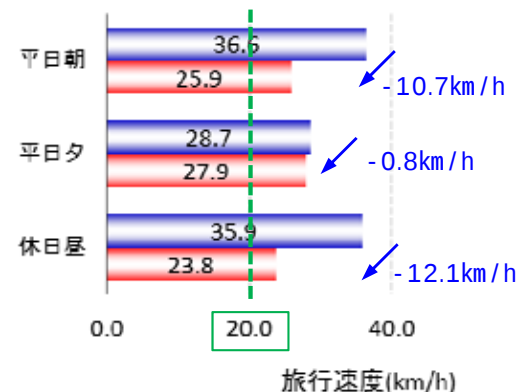
方向1_市道(北西)



方向2_市道(北東)



方向3_市道(南西)



選定時(H24) : H24.4 ~ H24.8
最新(H28) : H28.3 ~ H29.2

地域の主要渋滞箇所(一般道)-H29年8月2日時点

大分県

地域の主要渋滞箇所（一般道）-H29年8月2日時点

主要渋滞箇所数	集約される区間数	箇所数
145箇所	29区間	63箇所
	82箇所が含まれる	

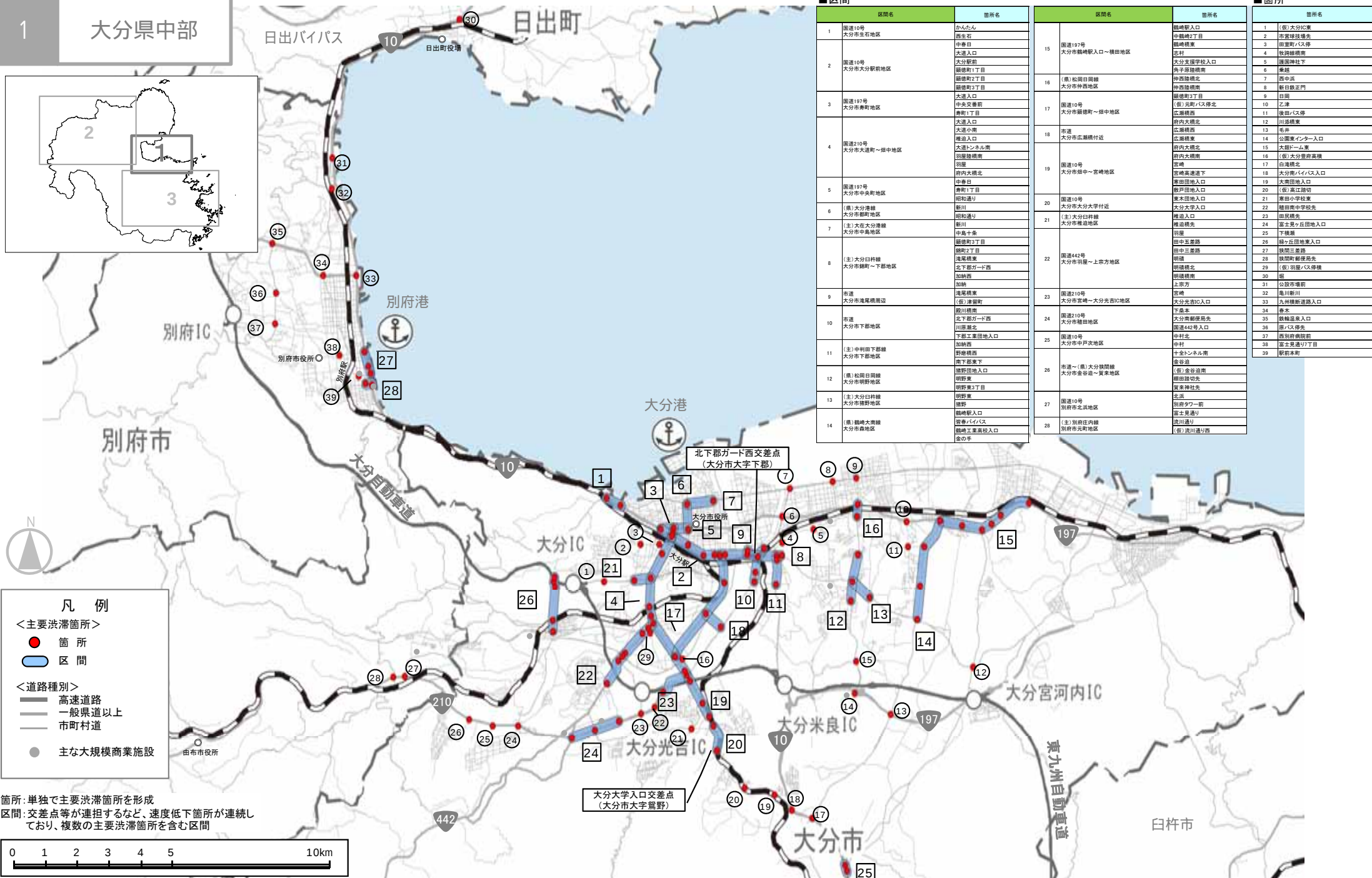
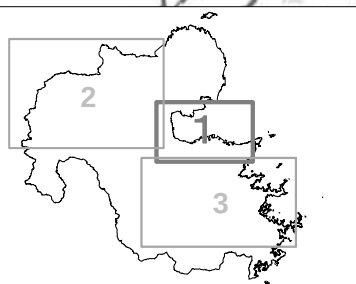
凡例

- <主要渋滞箇所>
- 箇所
- 区間
- <道路種別>
- 高速道路
- 一般県道以上
- 主な大規模商業施設

箇所: 単独で主要渋滞箇所を形成
区間: 交差点等が連担するなど、速度低下箇所が連続しており、複数の主要渋滞箇所を含む区間

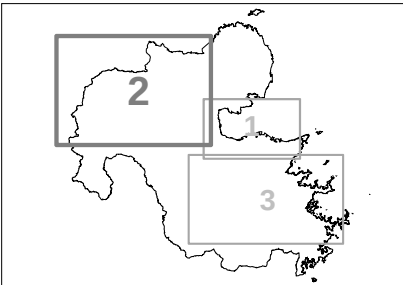
01 5 10 20km

大分県中部



2. 主要渋滞箇所の改定について

2 大分県北西部



箇所名	
40	牛神
41	中殿3丁目
42	(仮)総合庁舎東
43	東九州短大入口
44	田尻
45	中津港入口
46	大丸インター入口
47	新万田
48	新山国大橋
50	宇佐市佐野
51	宇佐市石田
52	宇佐市辛島
53	宇佐市法鏡寺
54	新地
55	玉川
56	元町
57	日ノ出第一
58	城町橋

凡 例

<主要渋滞箇所>

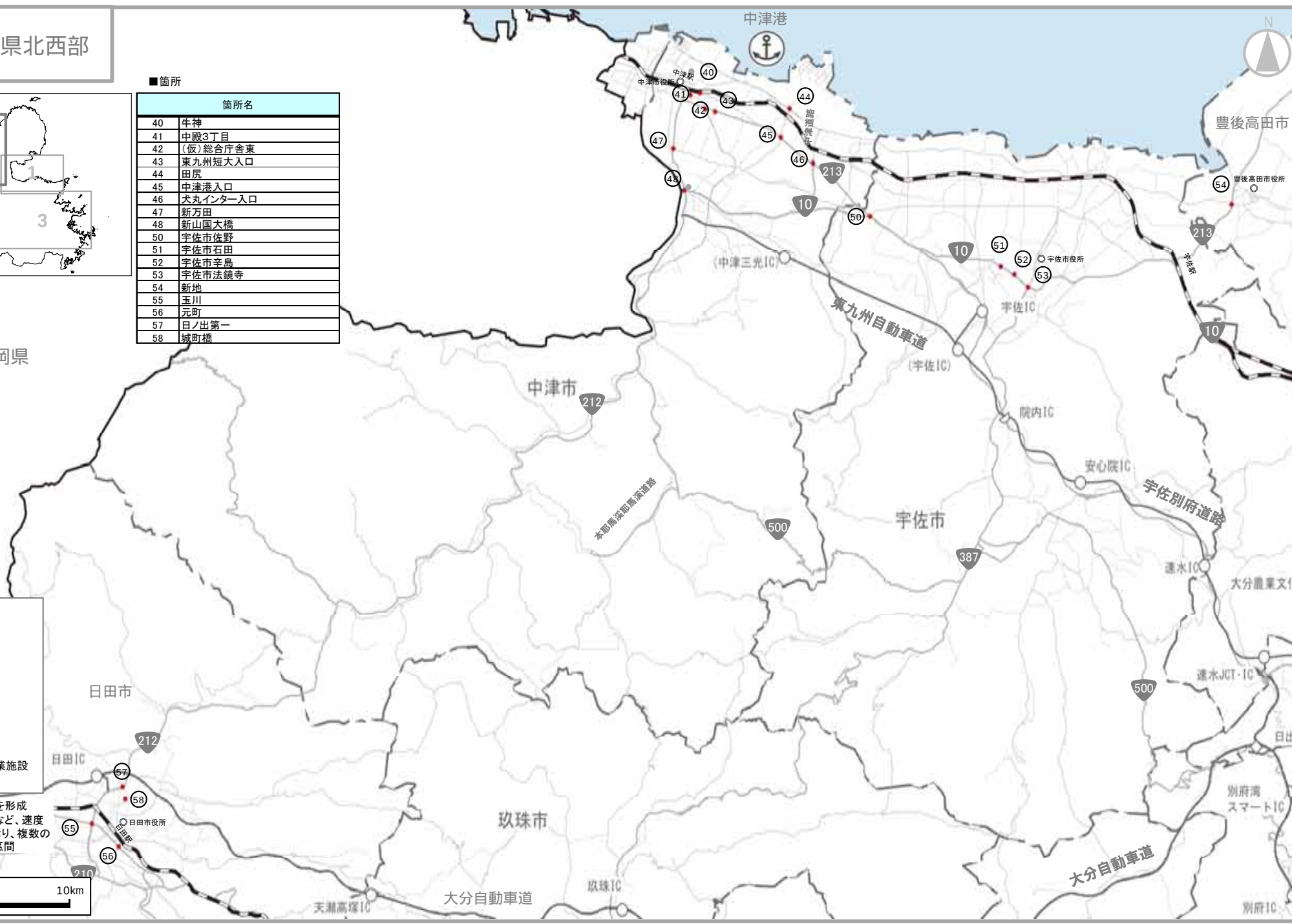
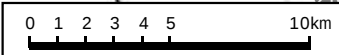
- 箇所
- 区 間

<道路種別>

- 高速道路
- 一般県道以上
- 市町村道

● 主な大規模商業施設

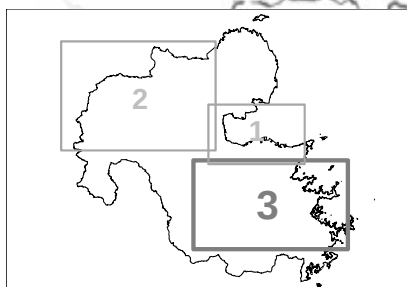
箇所: 単独で主要渋滞箇所を形成
区間: 交差点等が連担するなど、速度
低下箇所が連続しており、複数の
主要渋滞箇所を含む区間



2. 主要渋滞箇所の改定について

3

大分県南東部

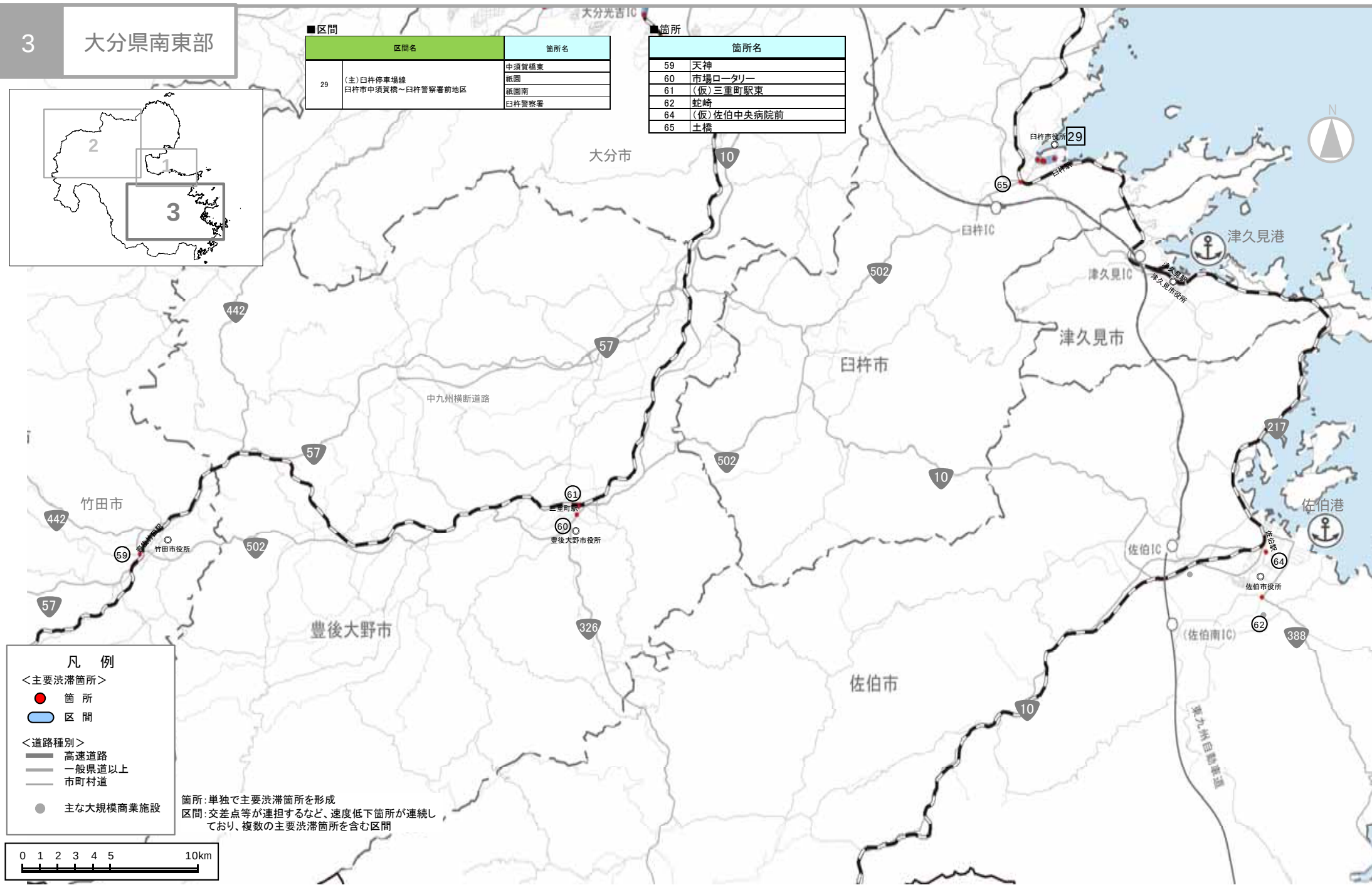


■ 区間

区間名		箇所名
29	(主) 臼杵停車場線 臼杵市中須賀橋～臼杵警察署前地区	中須賀橋東
		紙園
		紙園南
		臼杵警察署

● 箇所

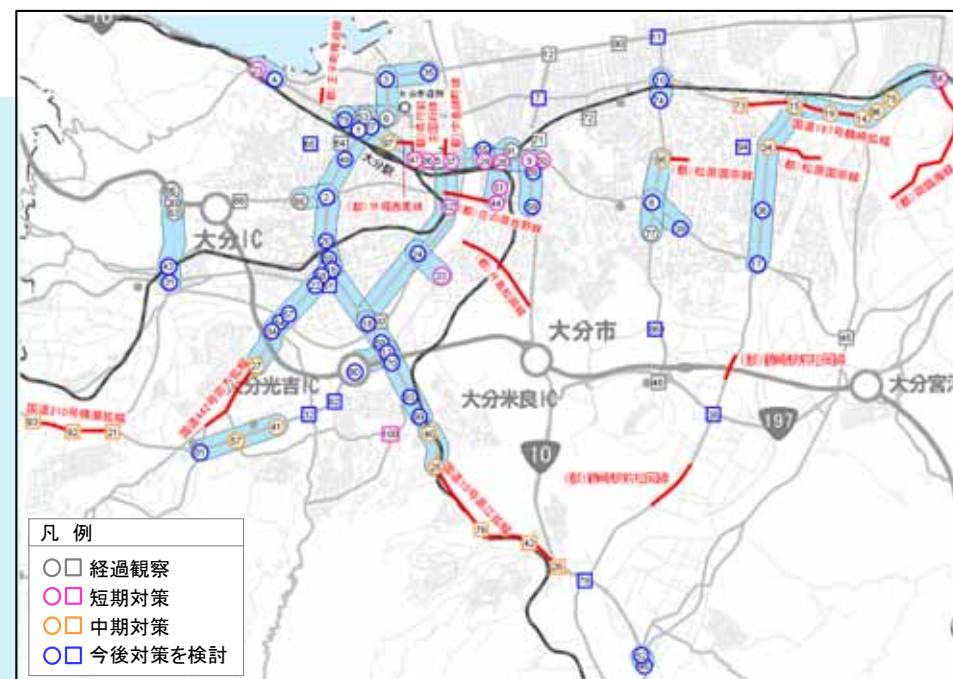
箇所名	
59	天神
60	市場ロータリー
61	(仮)三重町駅東
62	蛇崎
64	(仮)佐伯中央病院前
65	土橋



3. 大分エリアにおける渋滞対策の方針と取組み

(1) 大分県の主要渋滞箇所の現状(大分県)

- ・朝夕のピーク時や休日など交通集中により、県内各地で発生する道路交通渋滞は、県民活動に著しい影響を与えている。
- ・特に大分エリアに集中しており、全体の約7割(100箇所/147箇所)が集中している。

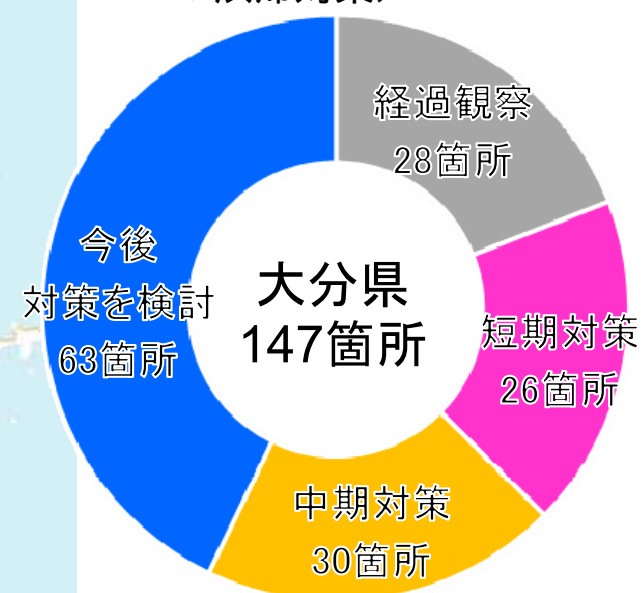
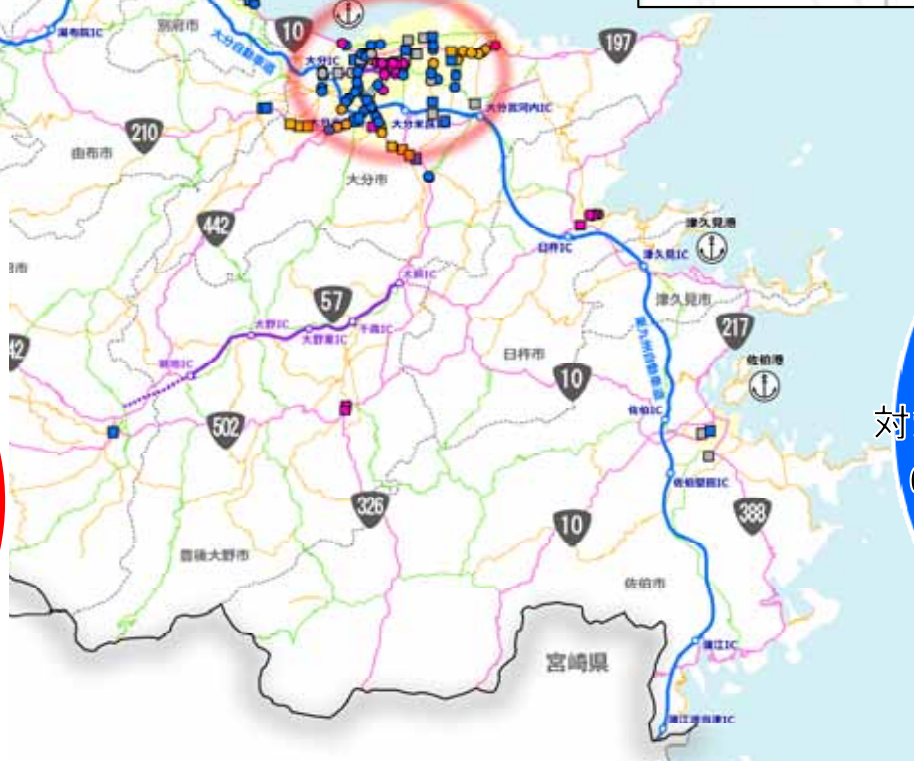
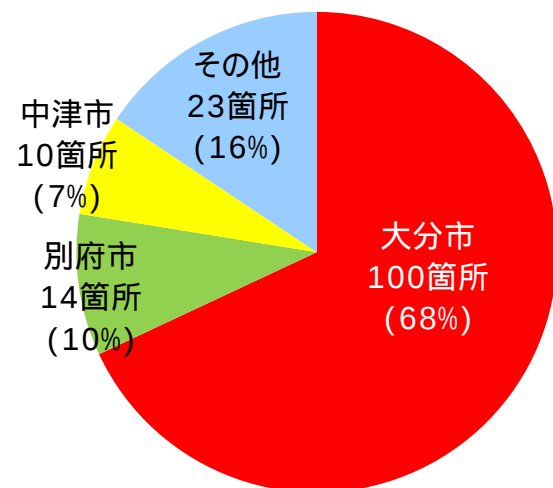


対策事業は、「大分都市圏総合都市交通計画(H27.9)」に基づ

▲ 大分エリア拡大図

▼ 渋滞対策メニュー

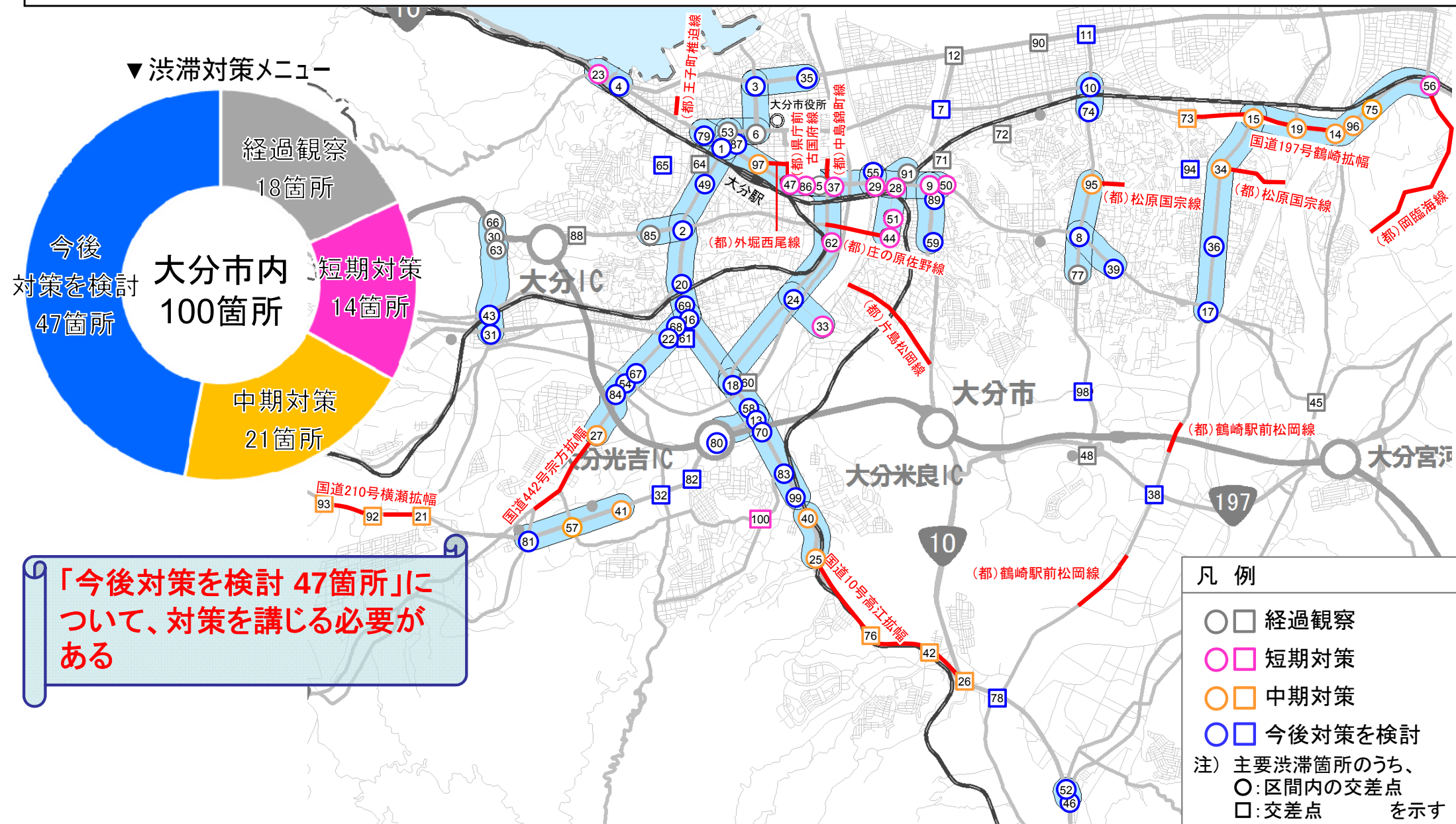
▼ 主要渋滞箇所の内訳



3. 大分エリアにおける渋滞対策の方針と取組み

(1) 大分県の主要渋滞箇所現状(大分エリア)

- ・現在、国道10号高江拡幅、庄の原佐野線などの対策事業を進めているが、今後対策を検討する必要がある箇所は約5割となっている。



3. 大分エリアにおける渋滞対策の方針と取組み

(2) 大分エリアにおける渋滞対策の方針

- ・大分エリアにおける道路交通課題は、渡河部の渋滞および都心部への流出入交通による混雑であり、大分県交通渋滞対策協議会(H27年8月開催)において、大分都市圏総合都市交通計画に基づき、ハード・ソフトを含めた渋滞対策の検討・実施を進めることとしている。

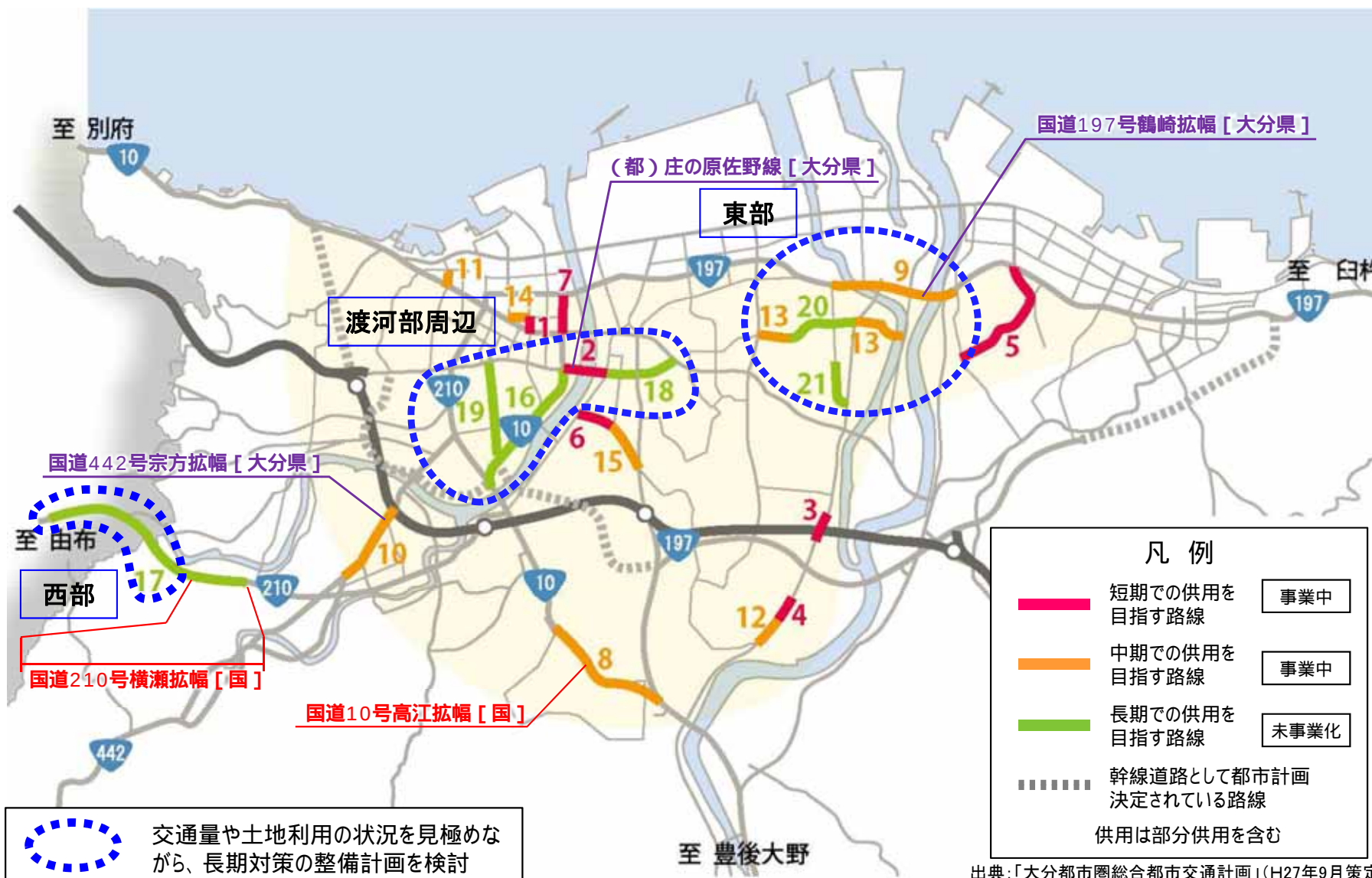
大分エリアの主要渋滞箇所と現在の対策等



3. 大分エリアにおける渋滞対策の方針と取組み

(3) 大分都市圏総合都市交通計画における位置づけ

- ・渡河部での混雑や都心部への流出入混雑については、短期・中期対策の道路整備に取り組んでいる。
- ・未事業化路線についても交通量や土地利用の状況を見極めながら、必要性の検討を進める。



NO	路線名	供用を目指す時期	事業者
1	県庁前古国府線	短期	市
2	庄の原佐野線	短期	県
3	鶴崎駅前松岡線	短期	県
4	鶴崎駅前松岡線	短期	県
5	岡臨海線	短期	市
6	片島松岡線	短期	市
7	中島錦町線	短期	市
8	(国道10号) 春日浦戸次線	中期	国
9	(国道197号) 駄ノ原細線	中期	県
10	(国道442号) 古国府木ノ上線	中期	県
11	王子町椎迫線	中期	市
12	鶴崎駅前松岡線	中期	県
13	松原国宗線	中期	市
14	外堀西尾線	中期	市
15	片島松岡線	中期	市
16	(国道10号) 錦町三芳線	長期	国
17	(国道210号) 萩原鬼崎線ほか	長期	国
18	庄の原佐野線	長期	県
19	上野丘南大分線	長期	市
20	松原国宗線	長期	市
21	乙津森町線	長期	市

出典:「大分都市圏総合都市交通計画」(H27年9月策定)

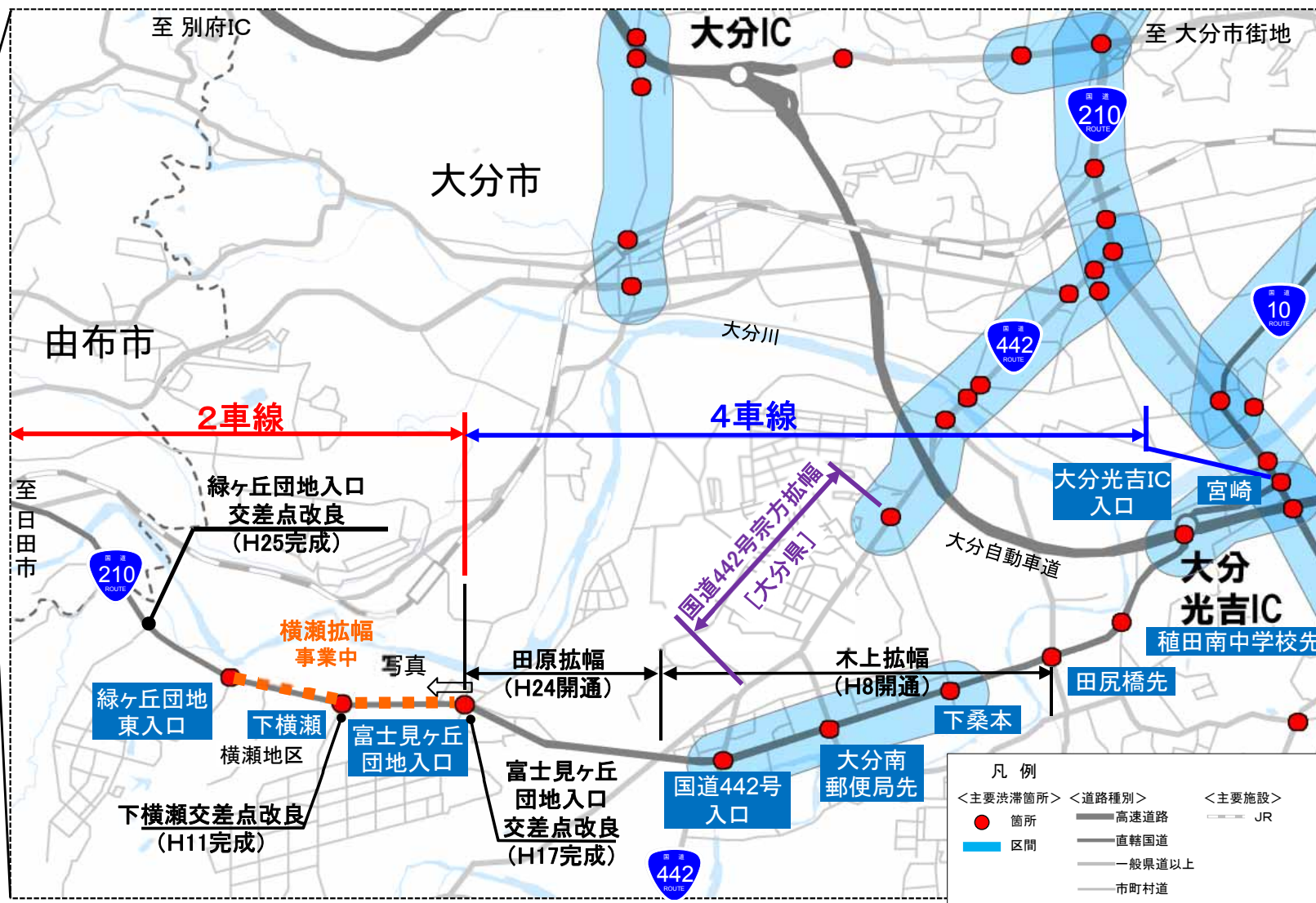
3. 大分エリアにおける渋滞対策の方針と取組み

(4) 大分エリアでの取組み状況〔都心部への流出入放射路線〕－国道210号の取組み状況

- ・木上拡幅や田原拡幅等の道路改築、交差点改良等の事業に順次着手しているが、**未だ渋滞が発生しており、西部の横瀬地区では【混雑度1.83】と非常に高い。**



写真1 国道210号の渋滞状況



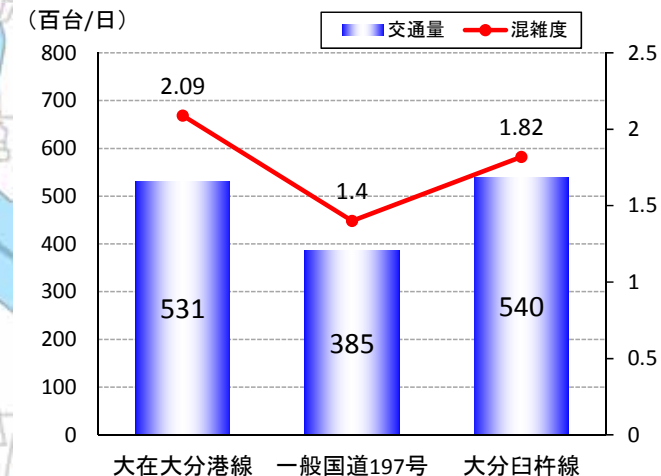
3. 大分エリアにおける渋滞対策の方針と取組み

(4) 大分エリアでの取組み状況〔渡河部周辺〕－(都)庄の原佐野線の取組み状況

- ・大分市中心部と東部を分断する大分川の渡河部周辺は、主要渋滞箇所が連続しており、交通が集中しているため混雑度も高い。
- ・これら慢性的な交通渋滞の緩和に向け、大分県では(都)庄の原佐野線元町・下郡工区の整備を進めている。
- ・長期対策については、周辺の短期対策の整備効果を見極めながら、整備計画の検討を行う。



▲ (都)庄の原佐野線(宗麟大橋)の整備状況



▲ 大分河渡河部断面構成路線の交通量と混雑度

出典: H27センサス

4. ピンポイント渋滞対策(簡易対策)の取り組み

(1) ピンポイント渋滞対策(簡易対策)

- ・大分エリアでの主要渋滞箇所の約5割が対策検討中であるため、今後は可能な範囲で、ピンポイント渋滞対策(簡易対策)を行い、交通渋滞の緩和を図っていく。
- ・主要渋滞箇所の渋滞状況、渋滞要因を整理し、現況の用地内を基本とした検討を行う。
- ・区画線の引き直し等により、滞留空間を確保するなど既存ストックを有効に活用して、短時間・低コストで実施可能な簡易対策を検討・実施する。
- ・簡易対策が実施可能な主要渋滞箇所については、道路管理者及び交通管理者との協議を進めていく。



右折車線相当の幅員として、1.5m以上のふくらみをもたせる
「道路構造令の解説と運用」より

- ・大分大学入口交差点では朝・夕を中心として至大分市街方向において交差点通過直後の合流部で車両交錯による速度低下が発生し、先詰まりによる渋滞が発生している状況であった。
- ・H29.2に交差点改良(合流方法を変更)により先詰まりを緩和し、至大分市街方向からの流出部での渋滞が解消されました。またそれに伴い、至大分市街方向の左折車も円滑に通行可能となった。
- ・ピンポイント対策により本交差点を**経過観察**とし、最新の交通データによる渋滞状況の検証を進める。

【位置図】

大分県

国道10号工事箇所

H29.2対策実施

整備前 (Before)	整備後 (After)
160 m	0 m

撮影位置①

至佐伯市

進渋滞により、左折田邊な進行を阻害

至大分市

直進渋滞により、左折
円滑な進行を阻害

第1車線に交通が集中し、先詰まりによる慢性的な渋滞が発生

摄影位置②

至大分市

至佐伯市

撮影位置
至
大分市街

至大分大学
大分大学入
交 差 点

攝影位置

--	--

至敷戸新町

至
佐伯市

第2車線へ交通が分散することで左折の円滑な通行が可能

至 大分市街

至大分大学
大分大学入
交 差

合流部での車両交錯が減少
先詰まりの緩和

直進車の合流 方法の変更

左折車線
の設置

至敷戸新田

至
佐伯市

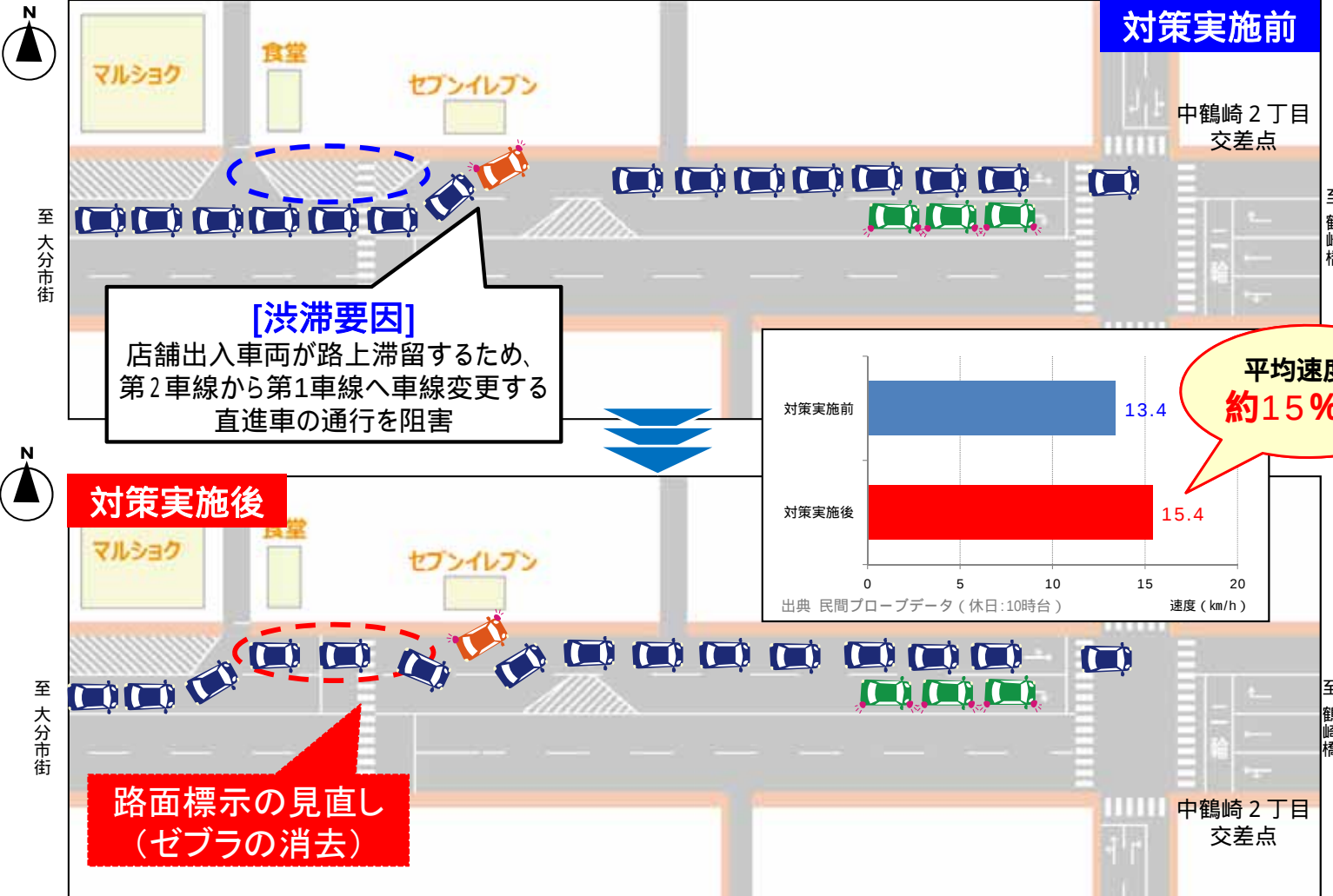
4. ピンポイント渋滞対策(簡易対策)の取り組み

(2) ピンポイント対策の取り組み紹介(中鶴崎2丁目交差点)

- ・中鶴崎2丁目交差点付近の国道197号は店舗に出入りする車両が停車しているため、後続の走行車両を阻害し渋滞が発生している。
- ・H28.6に交差点改良(路面標示の見直し(ゼブラの消去))により直進車の走行性向上と円滑化を図られ、平均速度が上昇した。
- ・ピンポイント対策により本交差点を経過観察とし、最新の交通データによる渋滞状況の検証を進める。

【主要渋滞箇所】 中鶴崎2丁目交差点

H28.6対策実施



路面標示の見直し

ゼブラの消去
直進車の車線シフト位置の変更(シフト区間長の拡大)

店舗出入り車両による阻害

直進する車両を手前で直進車線へ誘導

直進車両の円滑化

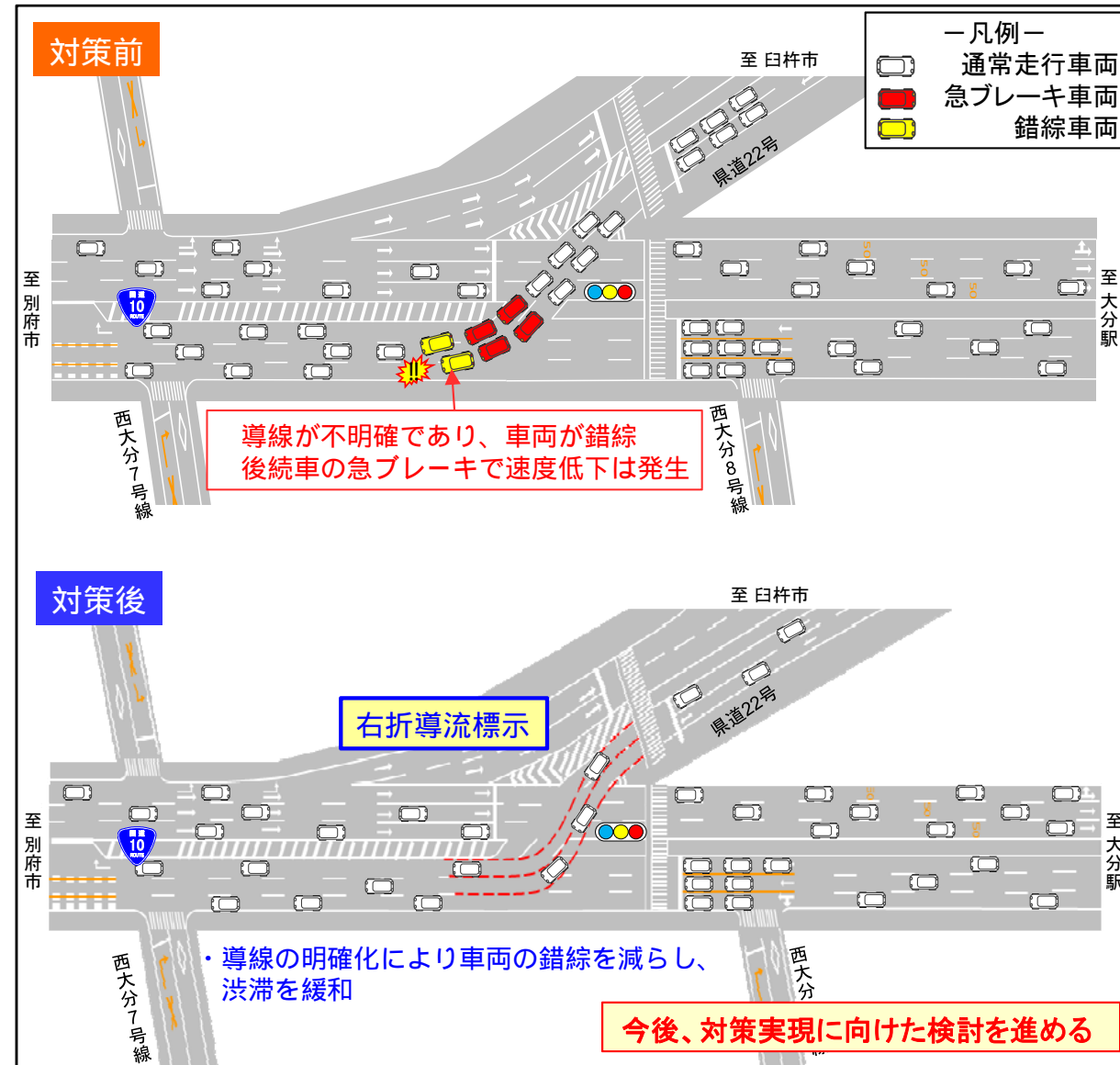
4. ピンポイント渋滞対策(簡易対策)の取り組み

(3) ピンポイント渋滞対策(簡易対策)の提案

- ・西生石交差点では従道路側から右折車の導線が不明確であり、交差点内での車両交錯が発生し、速度低下を招いている。
- ・導線の明確化(右折導流標示の設置)により車両交錯を減らし、渋滞緩和を目指す。

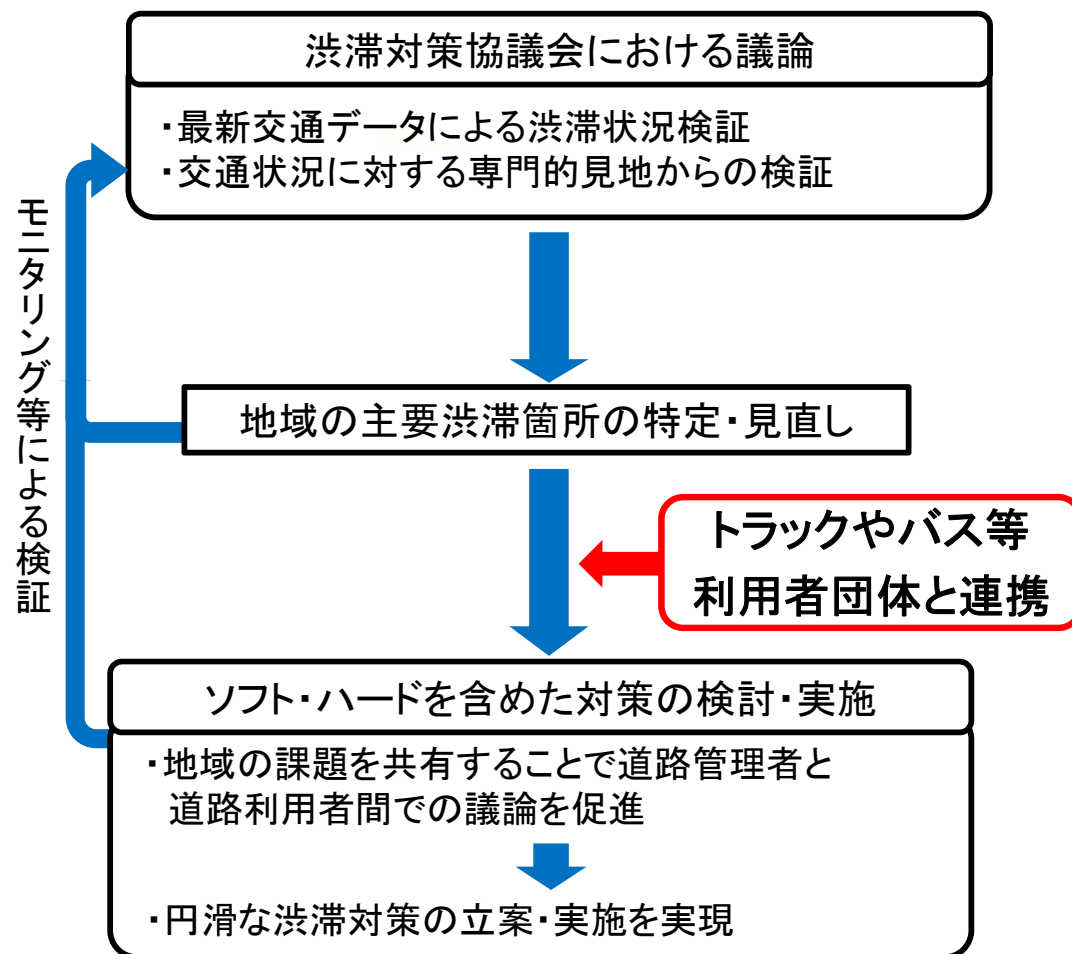


広域図



5.トラック・バス等の利用者団体と連携した渋滞対策の取り組み

- ・人・物の輸送の効率化を図るため、渋滞対策協議会とトラックやバス等の利用者団体との連携を強化し、利用者目線で対策箇所を特定した上で、即効性のある渋滞対策を実施予定である。



<トラックが渋滞に巻き込まれている状況>



<バスが渋滞に巻き込まれている状況>

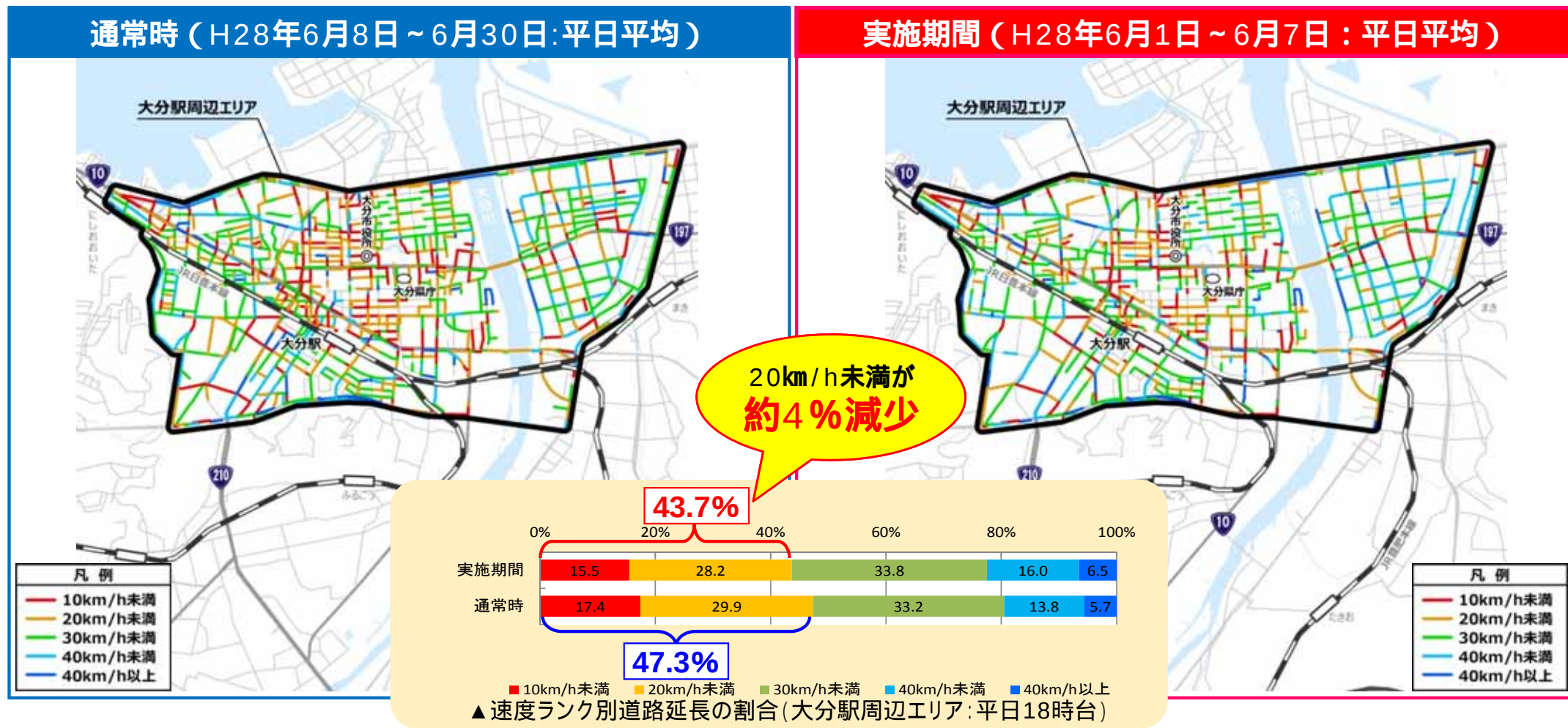
平成29年度は中部・中国ブロックの11箇所で対策を実施

6. 都心部におけるソフト対策の取り組み

(1) 「ノーマイカーウィーク」の実施

- ・大分県では、県民一人ひとりが参加する地球温暖化対策として、「ストップ地球温暖化大分県ノーマイカーウィーク」を実施。(年間モニター事業所:大分市内で25事業所)
- ・期間中は、公共交通機関の利用や徒歩、自転車での通勤等、自動車利用の抑制を継続的に展開中。
- ・H28年度は、6月、9月、12月、3月の4週間で実施され、地球環境への負荷軽減とともに、交通渋滞の緩和に貢献している。

▼「ノーマイカーウィーク」実施期間中と通常時の旅行速度(18時台)



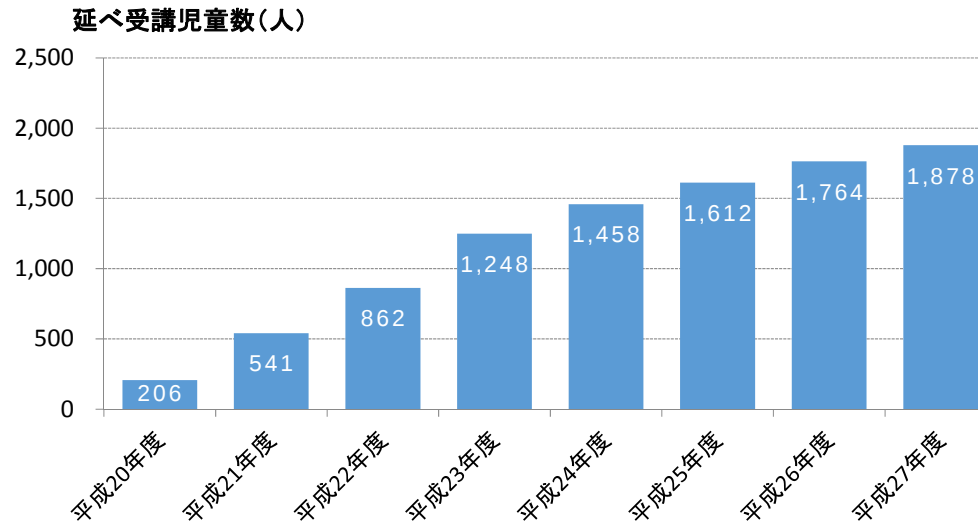
6. 都心部におけるソフト対策の取り組み

(2) 「バスの乗り方教室」の実施

- ・大分市では、自動車利用の増加に伴い、交通渋滞や交通事故の増加、環境負荷の増大等の問題に加え公共交通の利用低下が顕著。特に小中学生は、公共交通を利用する機会が減少。
- ・バス事業者との協力で、「バスの乗り方教室」を開催し、子どもたちに公共交通に親しんでもらうことで、将来における公共交通の利用促進を図ることを目的に、平成20年度より継続実施。
(延べ受講児童数:約1,900人 [H20~H27])
- ・将来においても持続可能な公共交通機関を維持するために、公共交通の必要性の周知・理解を積極的に図っていく。

▼「バスの乗り方教室」実施状況

年次	受講児童数 (人)	参加学校数
平成20年度	206	2
平成21年度	335	5
平成22年度	321	5
平成23年度	386	5
平成24年度	210	5
平成25年度	154	3
平成26年度	152	2
平成27年度	114	2



▲「バスの乗り方教室」延べ受講児童数



▲「バスの乗り方教室」授業状況

6. 都心部におけるソフト対策の取り組み

(3) 公共交通の利用促進施策の推進

- ・大分都市圏ではH27.9に「大分都市圏総合都市交通計画」を策定し、目指す交通体系の実現に向けて、公共交通利用促進施策を推進している。



7. 今後の進め方

- ・最新の交通データを収集・整理し、主要渋滞箇所の交通状況のモニタリングを継続的に実施していく。
- ・構築した検討体制により、モニタリング結果等を有効に活用し地域毎の渋滞対策の検討を推進する。

“交通渋滞対策協議会”による議論

- 最新の交通データによる渋滞状況の検証
- 地域の交通状況の変化等に対する専門的見地からの検証等
- 主要渋滞箇所の指定及び解除の協議・判断

“検討部会(大分エリア)及び 各道路管理者等(その他エリア)”による議論

- 交通状況のモニタリング（主要渋滞箇所のフォローアップ）
- 地域の交通課題の共有
- ソフト・ハードを含めた対策の検討・調整 等